

位置図



令和7年災
林道南沢線災害復旧工事（繰越明許）

特記仕様書

鶴岡市 農林水産部 農山漁村振興課

1. 共通仕様書の適用

本工事の施工にあたっては、「山形県農林水産部森林ノミクス推進課制定 森林土木工事共通仕様書 最新版、森林土木工事施工管理基準 最新版」にもとづき実施しなければならない。

なお、工事期間中において、共通仕様書の一部改訂がなされた場合においては、その適用の有無を別途協議するものとする。

※ 共通仕様書の一部改訂内容は以下ページから確認できます。

山形県のホームページ（<https://www.pref.yamagata.jp>）

- 組織別ページ
- 農林水産部
- 森林ノミクス推進課
- 森林土木工事の共通仕様書等

2. 共通仕様書に対する特記事項

共通仕様書に対する特記仕様事項は次のとおりとする。

第1編 共通編

第1章 総則

1-1 履行報告

受注者は、当初の請負代金が1件1,000万円以上の工事については、毎月の履行状況を工事履行報告書（様式第10号の3）により監督職員に提出しなければならない。

1-2 中間前金払

1. 契約約款第36条第3項に基づき中間前払金の支払を請求しようとするときは、あらかじめ、中間前金払認定請求書（様式第10号の2）に、監督職員の確認を受けた直近の工事履行報告書（様式第10号の3）の写しを添えて提出するものとする。

1-3 官有地（民有地）の使用に関する事項

1. 施工ヤードの造成・補修が必要な場合は、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。

1-4 建設副産物関係

1. 本工事により発生する特定建設資材廃棄物（コンクリート塊、建設発生木材、アスファルト・コンクリート塊）は、再資源化施設に搬出するものとする。特に、下記に示す特定建設資材廃棄物の搬出先はそれぞれ次の条件も満たすものとする。

【コンクリート塊】

規格品の再生クラッシャーラン（RC-40）として再資源化している再資源化施設
【アスファルト・コンクリート塊】

再生加熱アスファルト混合物の原材料として再利用している再資源化施設（アスファルトプラントでなくても、そのアスファルト塊が、最終的に再生加熱アスファルト混合物として利用されることが確認できる施設でも可）

2. 建設リサイクル法第6条に規定する「建設資材廃棄物の再資源化等に要する費用の適正な負担」に基づき、条件明示する特定建設資材廃棄物の搬出施設は、下記のとおりである。

【コンクリート塊】

- ① 受け入れ場所 : 鶴岡市西目字水上沢129-5
- ② 再資源化施設名 : 小野寺建設株式会社
- ③ 受け入れ時間帯 : 8時00分～17時00分

3. 落札者は、契約締結前、自らの都合により、前項の条件明示事項と別の方法等に変更する場合は、土木工事共通特記仕様書第1編共通編1-1-11建設副産物第2項で規定する契約前の説明において変更内容の説明を行うものとする。

なお、この場合において、搬出予定の再資源化施設が第1項に規定する条件を満たすことを証する書類等の提出を求められた場合は、速やかにこれを提出しなければならない。

また、この場合であっても、設計図書の変更は行わないものとする。

4. 受注者は、契約締結後、自らの都合により、建設工事請負契約約款様式第1号の2（解体工事に要する費用等調書）への記載内容と別の方法等に変更する場合には、あらかじめ監督職員へ工事打合簿等で説明を行い承諾を得るものとする。

その後、変更契約を締結する場合には、建設工事請負契約約款様式第8号の2（解体工事に要する費用等調書）へも変更内容を記載しなければならない。

なお、この場合において、搬出予定の再資源化施設が第1項に規定する条件を満たすことを証する書類等の提出を求められた場合は、速やかにこれを提出しなければならない。

また、この場合であっても、設計図書の変更は行わないものとする。

5. 受注者は、法令等に基づき、再生資源利用計画ならびに再生資源利用促進計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。

1-5 施工管理

1. 主たる工種

(1) 本工事における「主たる工種」は下記の工種とし、出来形管理図表（出来形測定結果表及び出来形図）及び品質管理図表のほか、出来形及び品質のばらつきが判断できる資料として、工程能力図又は、度数表（ヒストグラム）を作成し提出するものとする。

なお、受注者が施工管理上必要なものなど、これ以上の作成を妨げるものでは

ない。

【主たる工種】

工種	種別	備考
土工		
擁壁工		
舗装工		

(2) 「主たる工種」については、関連する共通仕様書（土木工事施工管理基準及び規格値）の出来形管理基準、品質管理基準に定めのある基準値及び規格値すべてについて工程能力図又は、度数表（ヒストグラム）を作成し、提出することを原則とするが、測定数が5点未満の場合については、監督職員と協議し省略することができるものとする。

1-6 施工時期、時間、施工方法の制限事項（工程関係）

1. 本工事において、他の管理者より特別施設及び施工時間帯等の制約を受けた場合は、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。
2. 本工事の作業時間帯は、下表に示すとおりとする。なお、受注者は、関係機関等との調整の結果、作業時間帯に変更が生じた場合は作業時間帯に関して、速やかに監督職員と協議しなければならない。

工種又は種別・細別	時間帯		期間
	作業開始	作業終了	
	8時30分	17時00	

1-7 関係機関との協議事項（工程関係）

1. 1号箇所の施工については、倒木により不可視となっていることから想定での発注となっており、別途発注の設計業務において、設計の見直しが必要か判断すること予定である。そのため、1号箇所については、倒木の除去が完了した段階で調査を行うことから、土工作業については、その判断が完了するまで実施出来ないものとする。

1-8 工事名標示板に関する事項（安全確保関係）

1. 工事名標示板に記載する、工事の種類及び工事内容の説明は次のとおりとする。

工事の種類	(例) 災害復旧工事中
工事内容の説明	(例) 豪雨により被災した林道を復旧しています。

1-9 土砂崩落、落石等の防護に関する事項（安全確保関係）

1. 施工に伴い土石等の崩落防護ならびに飛散防止の施設が必要となった場合は、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。

1-10 交通安全に関する事項（交通安全関係）

1. 交通誘導員の配置

交通管理に要する交通誘導員の配置は任意とする。

なお、交通管理者との協議により配置を義務づけられた場合には、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。

1-11 災害時の協力体制

1. 緊急巡回

- (1) 緊急巡回とは、台風、豪雨、豪雪、地震等により、工事現場において災害が発生した場合又はそのおそれがある場合にその状況を把握し、適切な措置を講じるもので、監督職員の指示により巡回を行うものである。
- (2) 緊急巡回担当者は、工事現場の異常等を発見した場合には、速やかにその危険を防止するため、その場でとりうる適切な措置を構ざるとともにその状況について監督職員に報告するものとする。
- (3) 緊急巡回にあたっては、写真撮影をし、日時及びその状況を記録しておくものとする。
- (4) 緊急巡回中に事故が発生したときは、速やかにその状況を監督職員に報告しなければならない。

2. 災害時の協力体制と緊急時の諸作業

工事現場が災害等で被災した場合に備え、協力体制を確立しなければならない。

1. 緊急巡回及び緊急時の協力体制に関する詳細については、発注者・受注者双方の協議により行うものとする。

1-12 事故報告

1. 受注者は、工事の施工中に事故が発生した場合には、第一報を直ちに監督職員へ電話にて通報するとともに、通報後速やかに工事事故報告書（共通仕様書（参考資料）参考様式5）をFAX、又はE-Mailにより提出しなければならない。
2. 報告する事故の分類は、当該建設工事現場に関する「労働災害」、「もらい事故」、「死傷公衆災害」、「物損公衆災害」とし、事故の規模を問わず、すべて報告すること。

1-13 事業損失に関する事項（環境対策関係）

1. 施工途中において、工事騒音、振動、地下水低下等の影響により、調査及び対策の必要が生じた場合は、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。
2. 工事の施工に伴い、騒音振動の測定が必要になった場合は、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。

第2章 土工

2-1 残土受入地

1. 受注後、土工着手までに発注者が搬出先を決定する。
2. 工事により発生する残土は現場内に仮置き出来るものとする。
3. 工事により発生する残土の整理方法については、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。

2-2 一般

1. 施工にともない、防じん処理の必要が生じた場合は、監督職員と協議しなければならない。

第2編 材料編

第1章 土木工事材料

1-1 購入土

購入土については、土質試験成績表等を提出し、監督職員の承諾を得なければならない。

1-2 再生資材の使用

工事に使用する再生資材は次表のとおりとする。

材料名	規格	使用箇所	摘要
再生クラッシャーラン	RC-40	路盤工、敷砂利	
再生クラッシャーラン	RC-80	裏込材	
再生As合材	再生密粒度As 1 3 F	表層工	

1. 再生クラッシャーランは、廃棄物であるコンクリート塊、アスファルトコンクリート塊を破碎、選別、混合物除去、粒度調整等を行うことにより再資源化された資材をいい、これら以外の材料（新材の碎石、ズリ、コンクリートを製造し破碎したもの等）が混合されていない状態のものをいう。
2. 下層路盤材、歩道路盤材に使用する再生碎石（RC-40）は下記の品質基準を満足するものとする。
 - ・修正C B R
下層路盤材 修正C B R 値 40%以上
歩道路盤材 修正C B R 値 20%以上
 - ・粒度範囲
骨材のふるい分け試験方法 JIS A 1102 により、粒度が土木工事共通仕様書第2

編材料編 2-3-3 表 2-4 に適合すること。

・塑性指数（下層路盤材の場合のみ）

土の液性限界・塑性限界試験 JIS A 1205 により、塑性指数 P I が 6 以下であること。

・すりへり減量

粗骨材のすりへり減量試験 JIS A 1121 により、すりへり量が 50% 以下であること。

・アスファルト塊混入率

再生骨材に含まれるアスファルト塊が 70% 以下であること。

第3編 土木工事共通編

第1章 総則

1-1 段階確認

共通仕様書 第3編 森林土木工事共通編 3-1-1-2 監督職員による確認及び立会等により指定された工種及び山形県建設工事監督技術基準の別表1に、次の工種を追加するものとする。

1. 監督職員が立会を要するとき

- (1) B.Mを移設するとき
- (2) 中心杭を移設するとき
- (3) 掘削中に埋設された構造物または施設を発見したとき
- (4) その他、監督職員が確認を要するとき

2. 監督職員が確認を要するとき

- (1) 工事完成後に隠蔽される一定作業区分が完了した時点
- (2) I.Pの引照点を設置したとき
- (3) 丁張設置完了時
- (4) その他、監督職員が特に指示したとき

種別	確認時期
土工	丁張設置完了時、法面整形完了時
路盤工	下層路盤転圧完了時
路盤工	上層路盤転圧完了時
擁壁工	床掘完了時（設置地盤面確認）、設置完了時

その他

工事内容の増減に伴う変更が生じる場合、速やかに監督職員に報告し、指示を仰ぐこと。了解を得ずに増工（増額）したものについては、変更の対象としない。

照 査	設 計

令和7年災林道南沢線災害復旧工事（繰越明許）工事設計書

路線名	林道南沢線	職名 / 設計者	
事業名	令和7年災林道南沢線災害復旧工事（繰越明許）		
林道区分	自動車道2級		
林道種類	その他		
幅員	3.6m		
施工主体	鶴岡市		
工事期間	令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日		
工事日数	日		
施工箇所	鶴岡市山五十川字南沢地内		
職名 / 審査者			
合計額			
工事価格			
消費税相当額			

本工事内訳書

工事区分	工種	種別	細別	単位	数量	単価	金額	摘要
本工事費	道路工事							
	土工			式	1			(第 1号内訳書)
		掘削工		m ³	156			第 1号明細書
		盛土工		m ³	73			第 2号明細書
		残土処理工		m ³	221			第 3号明細書
	擁壁工			式	1			(第 2号内訳書)
		大型コンクリートブロック積工		m ²	59.3			第 4号明細書
	舗装工			式	1			(第 3号内訳書)
		アスファルト舗装工		m ²	12.7			第 5号明細書
	構造物撤去工			式	1			(第 4号内訳書)
		舗装版取壊し		m ²	10.2			第 6号明細書
	仮設工			式	1			(第 5号内訳書)
		工事用道路工		式	1			第 7号明細書

本工事内訳書

本工事内訳書

第 6号

舗装版取壊し

10.2m²当たり

明細書

第 7号

工事用道路工

1式当たり

明細書

第 8 号

仮縫切工

1式当たり

明細書

第 9号

水替工

1式当たり

明細書

土 量 配 分 図

掘削工		
C1(掘削)	83.6	
C2(床掘)	72.3	
計	① 155.9	掘削工
仮設道より	98.7	
計	② 98.7	
流用可能土	③ 155.9	

必要量	33.3
-----	------

盛 土 工		
埋戻(流用土)	33.3	
計	33.3	
埋戻(購入土)	39.7	
計	④ 39.7	
小計	73.0	盛土工
仮設道より	⑤ 88.8	
計	88.8	
計	128.5	購入土 ④+⑤



購入土(土砂又は砂利)

$$(④39.7+⑤88.8) \times 1.20 \div 0.9 = 171.3$$

土工集計表

名 称	形 状 及 び 算 式	数 量
掘削工		
掘削積込み C1		83.6 m ³
床堀り C2		72.3 m ³
ルーズ土積込	72.3 - 33.3	39.0 m ³
		掘削土量計 155.9 m ³
盛土工		
埋 戻 工 RB1	流用土	33.3 m ³
埋 戻 工 RB2	購入土(土砂又はさり等)	39.7 m ³
購入土		
土砂又はさり	39.7 × 1.20 ÷ 0.9	購入土量計 52.9 m ³
不整地運搬車運搬(購入土) L=0.03km		39.7 m ³
残土処理工		
不整地運搬車運搬(残土) L=0.03km	(83.6 + 72.3) - 33.3	122.6 m ³
積 込		
ルーズ		122.6 m ³
残 土 処 理 工 L=9.5km	仮設道路 (83.6 + 72.3) - 33.3 + 98.7	221.3 m ³
整地		
残土受入地での処理		221.3 m ³

土 量 数 量 計 算 書

土 量 数 量 計 算 書

測 点	距 離	補正距離	埋戻し RB1		埋戻し RB2			
			断 面	立 積	断 面	立 積	断 面	立 積
NO.0	0.00		2.9	-	1.2	-		
+	2.00	2.00	1.5	4.4	3.3	4.5		
+	8.00	6.00	4.4	17.7	4.4	23.1		
+	9.00	1.00	4.8	4.6	4.5	4.5		
+	11.70	2.70	0.1	6.6	1.1	7.6		
合 計	11.70	0.00		33.3		39.7		

大型コンクリートブロック積工 数量集計表

1

ブロック積工面積数量計算書

2

ブロック積工 脊込コンクリート 数量計算書

ブロック積工 裏込碎石 数量計算書

測 点	距 離	補正距離	裏込碎石					
			法長	面積				
NO.0	0.00		2.0	-				
+ 2.00	2.00		4.4	6.40				
+ 8.00	6.00		3.7	24.30				
+ 9.00	1.00		3.6	3.70				
+ 11.70	2.70		2.0	7.60				
合 計			42.0					
			面積 厚さ					
			42.0 × 0.30 = 12.60					

ブロック積工 数量計算書

数量計算書

5

名 称	形 状 及 び 算 式	数 量
基礎コンクリート		
	基礎延長	7.00 m
基礎コンクリート 小型構造物 18-8-40	((0.42 + 0.45) / 2 × 0.05 + 0.20 × 1.10) × 7.00	1.69 m ³
基礎コンクリート型枠 小型構造物	(0.25 + 0.20) × 7.00	3.15 m ²
基礎碎石 C-80 t=10cm	1.30 × 7.00	9.10 m ²
基面整正	1.30 × 7.00	9.1 m ³
天端調整コンクリート 小型構造物 18-8-40	① (0.438 + 0.645)/2 × 2.00 ② (0.195 + 0.618)/2 × 4.00 ③ (0.168 + 0.582)/2 × 4.00 ④ (0.132 + 0.312)/2 × 1.70	= 1.08 = 1.63 = 1.50 = 0.38
		4.59 m ³
天端調整コンクリート型枠 小型構造物	① (1.06 + 1.58)/2 × 2.00 ② (0.46 + 1.51)/2 × 4.00 ③ (0.39 + 1.42)/2 × 4.00 ④ (0.30 + 0.75)/2 × 1.70	= 2.64 = 3.94 = 3.62 = 0.89
		11.09 m ²
調整コンクリート 小型構造物 18-8-40	① 幅 高 厚 1.00 ×(0.05 + 1.65)× 1/2 × 0.805 ② 1.00 ×(0.65 + 2.25)× 1/2 × 0.805 ③ 0.70 ×(1.69 + 2.87)× 1/2 × 0.805 ④ 1.00 ×(0.37 + 2.06)× 1/2 × 0.805 ⑤ 1.00 ×(0.56 + 2.25)× 1/2 × 0.805	= 0.68 = 1.17 = 1.28 = 0.98 = 1.13
		5.24 m ³

ブロック積工 数量計算書

數量計算書

天端調整コンクリート

数 量 計 算 書

									入力値
区分	H1	H2	A(天端幅)	B(厚さ)	面 積	法長 L1 表法長	法長 L2 表法長	法 長 (L1+L2)	
NO.0	0.45	0.05	0.90	0.805	0.438	0.503	0.559	1.06	
+2.00	0.68	0.05	0.90	0.805	0.645	0.760	0.816	1.58	
+2.00	0.18	0.05	0.90	0.805	0.195	0.201	0.257	0.46	
+6.00	0.65	0.05	0.90	0.805	0.618	0.727	0.783	1.51	
+6.00	0.15	0.05	0.90	0.805	0.168	0.168	0.224	0.39	
+10.00	0.61	0.05	0.90	0.805	0.582	0.682	0.738	1.42	
+10.00	0.11	0.05	0.90	0.805	0.132	0.123	0.179	0.30	
+11.70	0.31	0.05	0.90	0.805	0.312	0.347	0.402	0.75	

舖裝工集計表

舗装工数量計算書

測点	距離	補正距離	表層		路盤			
			幅	面積	幅	面積	幅	面積
NO.0	0.00		1.03	-	1.05	-		
+	2.00	2.00	1.07	2.10	1.09	2.14		
+	8.00	6.00	1.14	6.63	1.16	6.75		
+	9.00	1.00	1.15	1.15	1.17	1.17		
+	11.70	2.70	0.93	2.81	0.95	2.86		
合計	11.70			12.69		12.92		

構造物撤去工 数量集計表

1

舗装版取壊し

數量計算書

2

仮 設 工 集 計 表

土 量 数 量 計 算 書

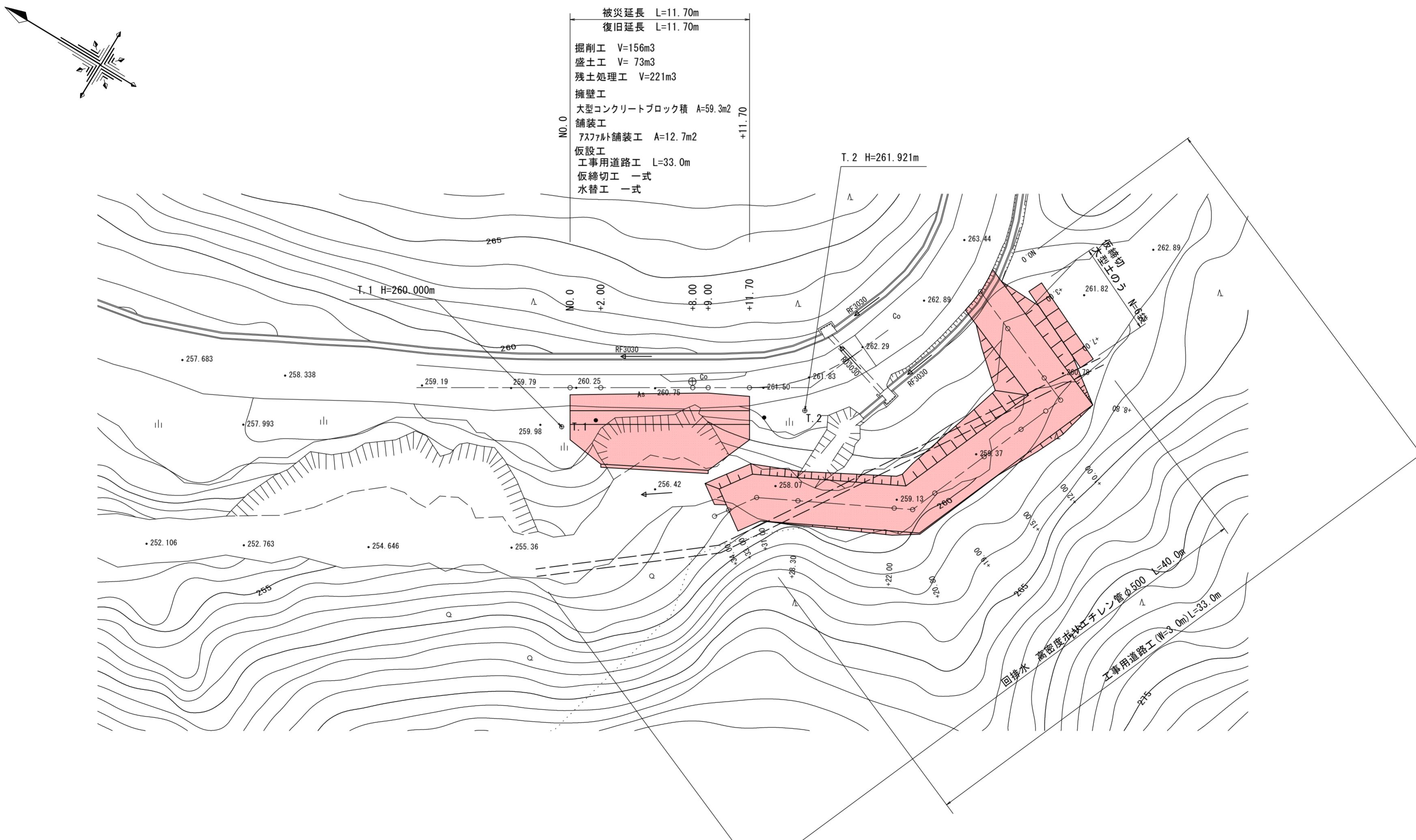
仮締切工数量集計表

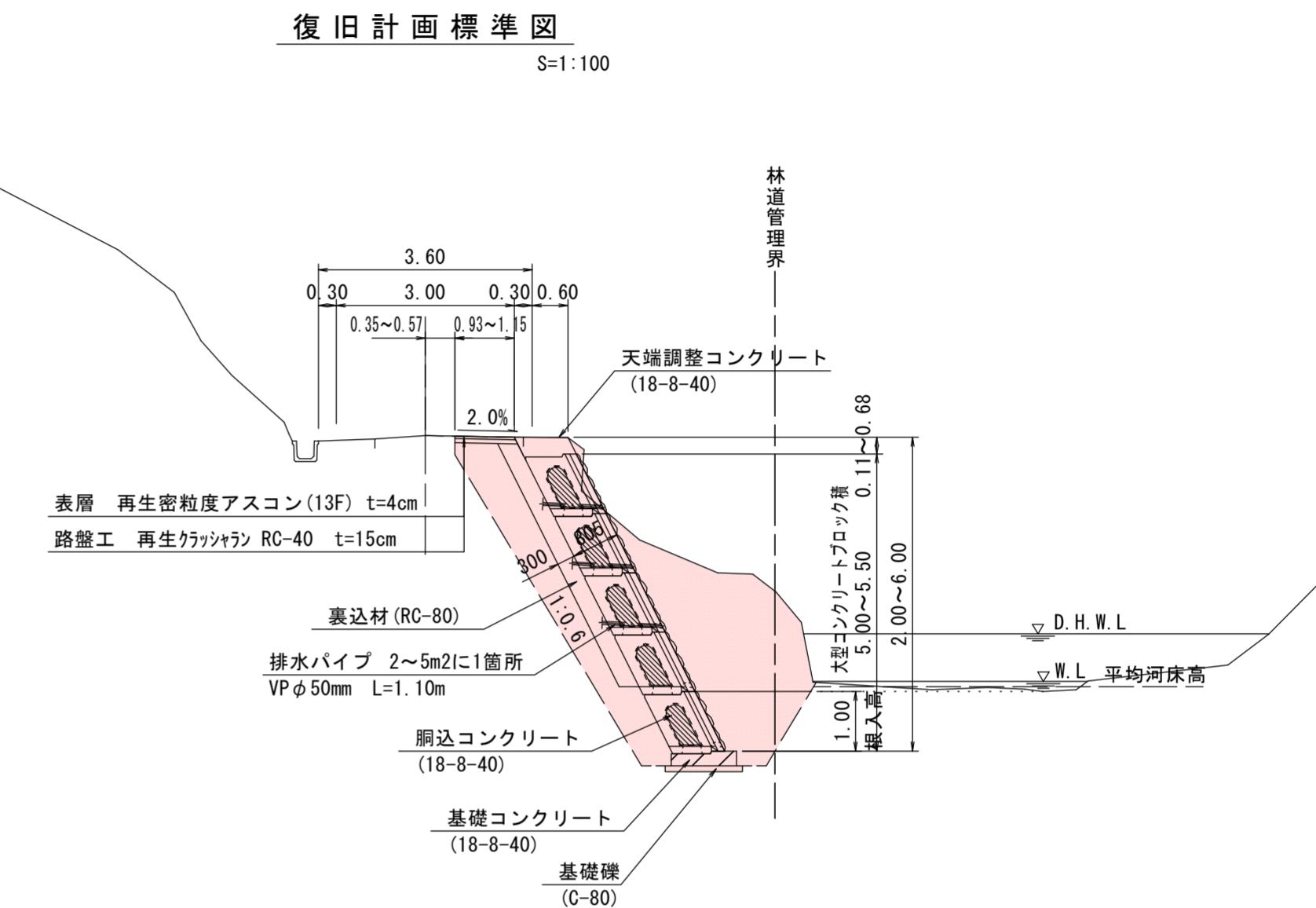
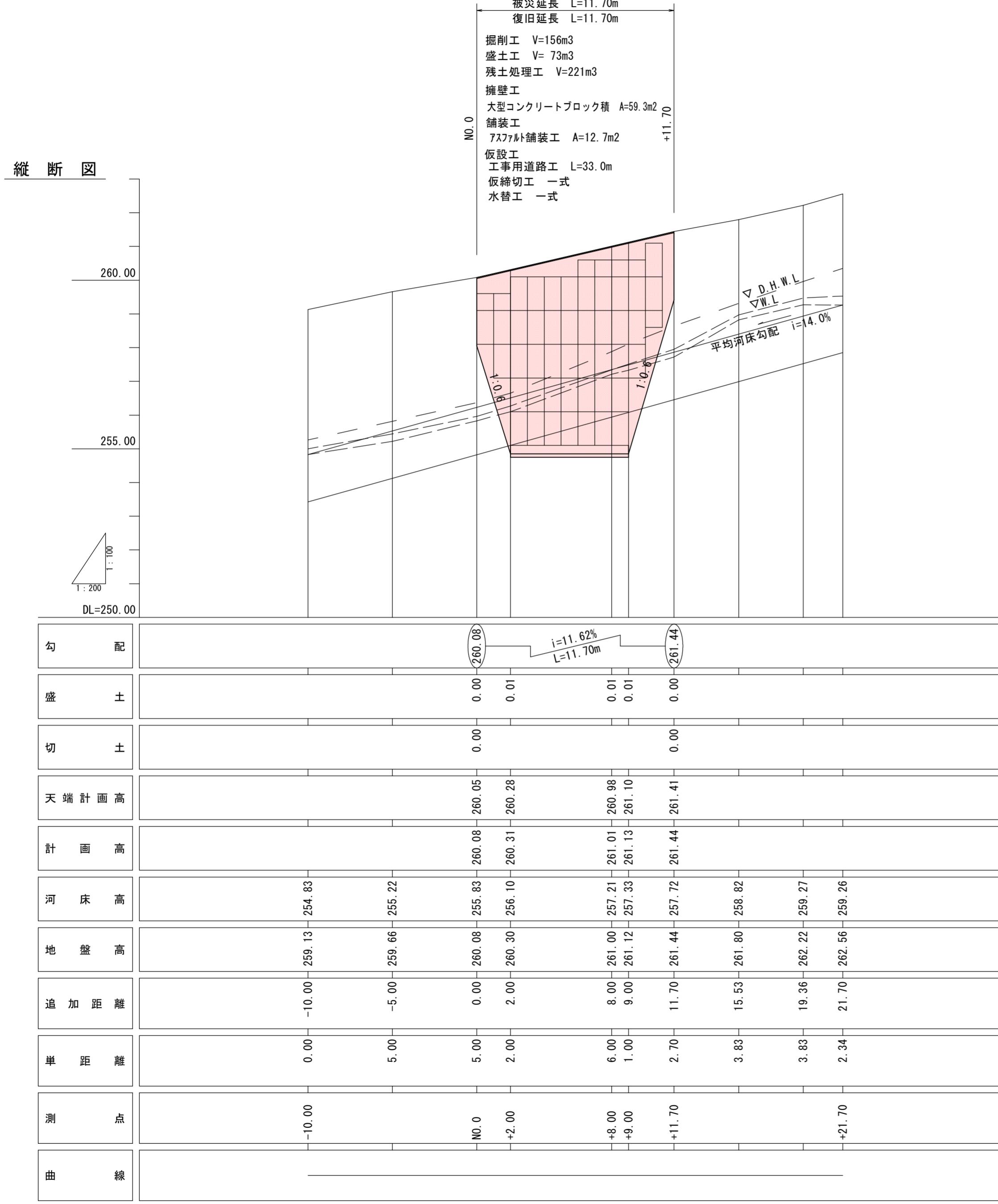
1

路線名	林道南沢線		事業名	災害復旧事業	
林道区分	その他	級別区分	2級	設計速度	20 km/h
年　度	令和7年度		施工主体	鶴岡市	
名　称	平面図		1　葉中	1　番	
施工地	山形県　鶴岡市　山五十川　字南沢　地内				
縮　尺	\$=1/200	審査者		設計者	

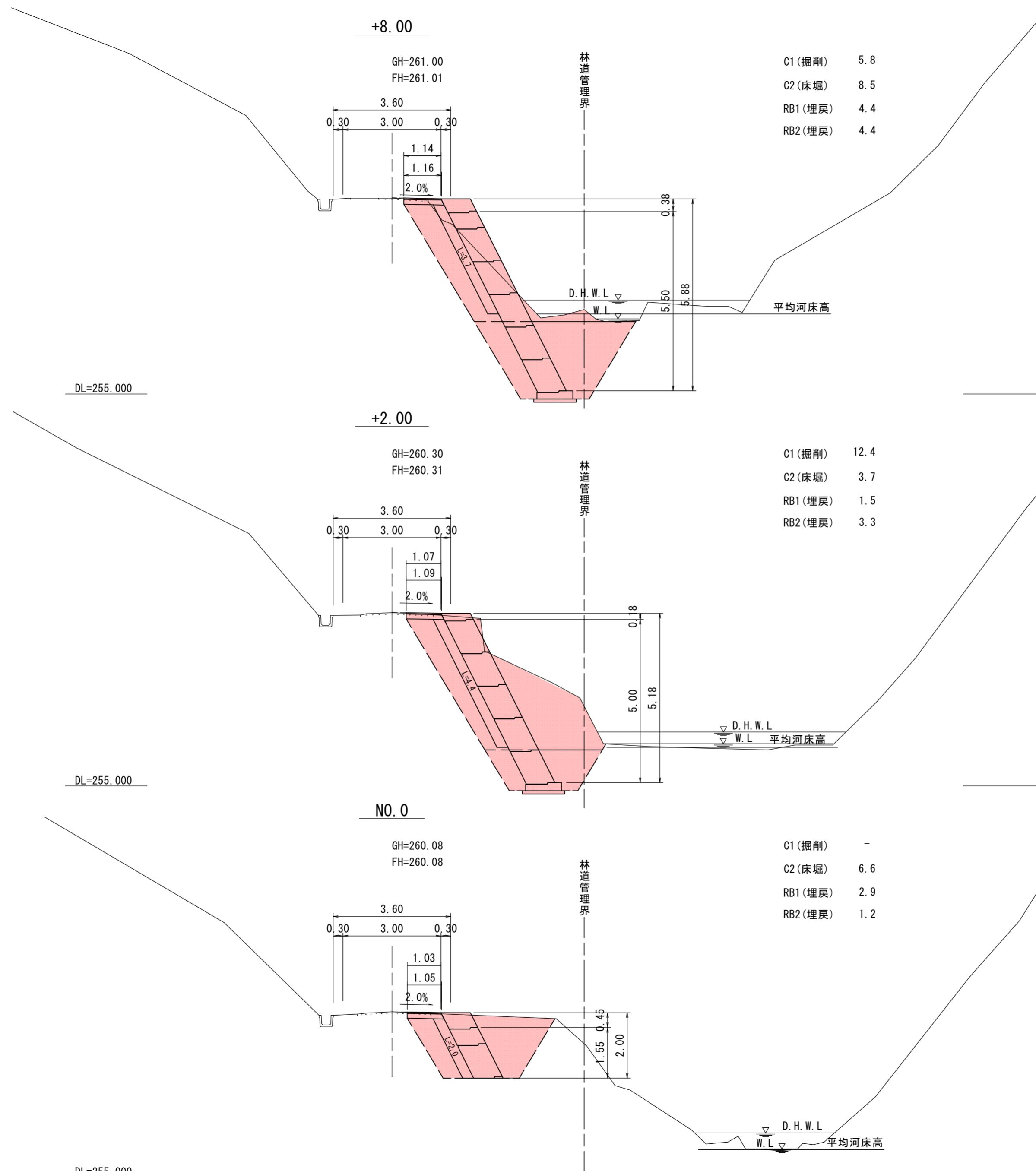
平面図

S=1:200

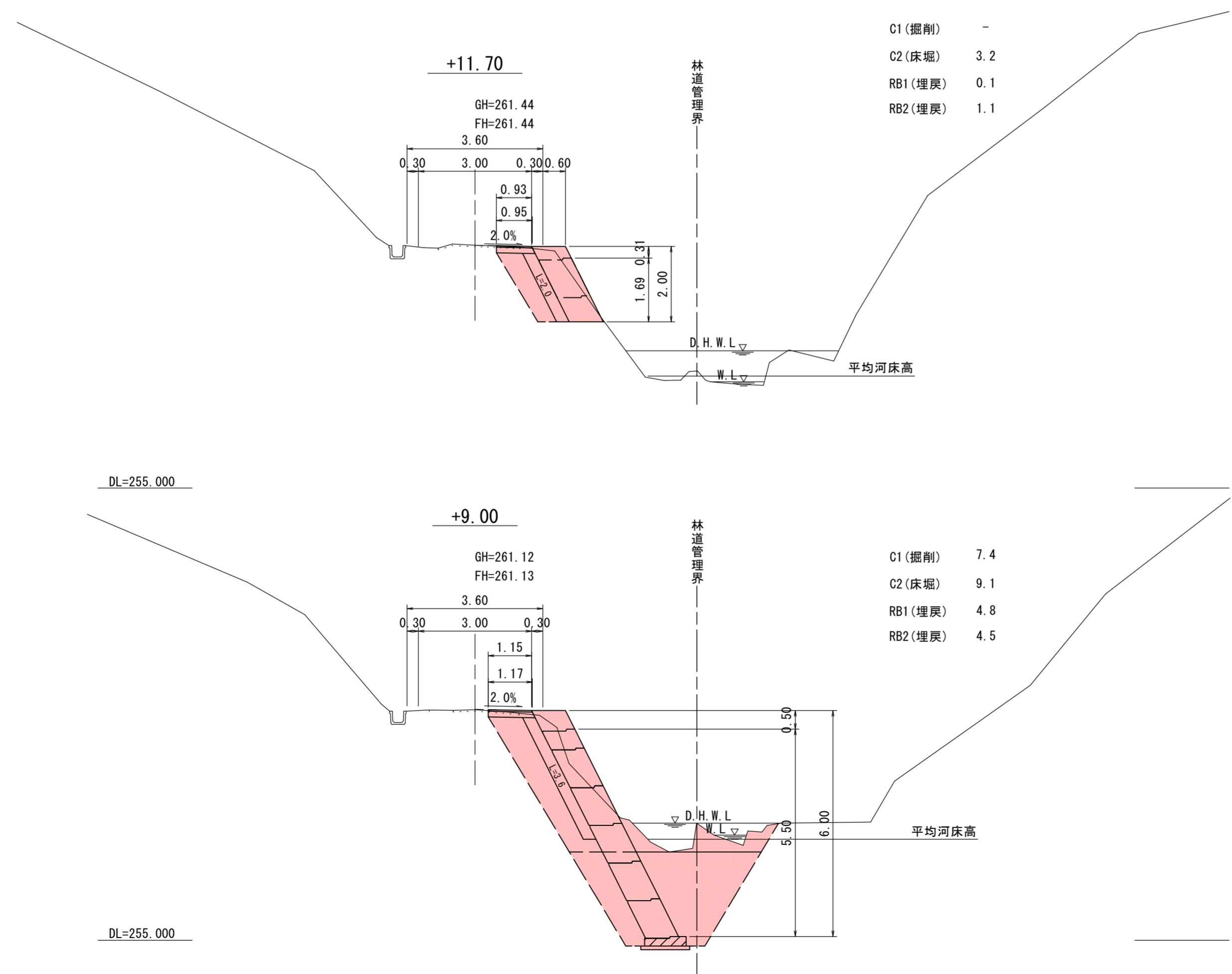




実施					
路線名	林道南沢線		事業名	災害復旧事業	
林道区分	その他	級別区分	2級	設計速度	20 km/h
年 度	令和 7 年度		施工主体	鶴岡市	
名 称	縦断図・復旧計画標準図			1 葉中	1 番
施工地	山形県 鶴岡市 山五十川 字南沢 地内				
縮 尺	S=図示	審査者		設計者	



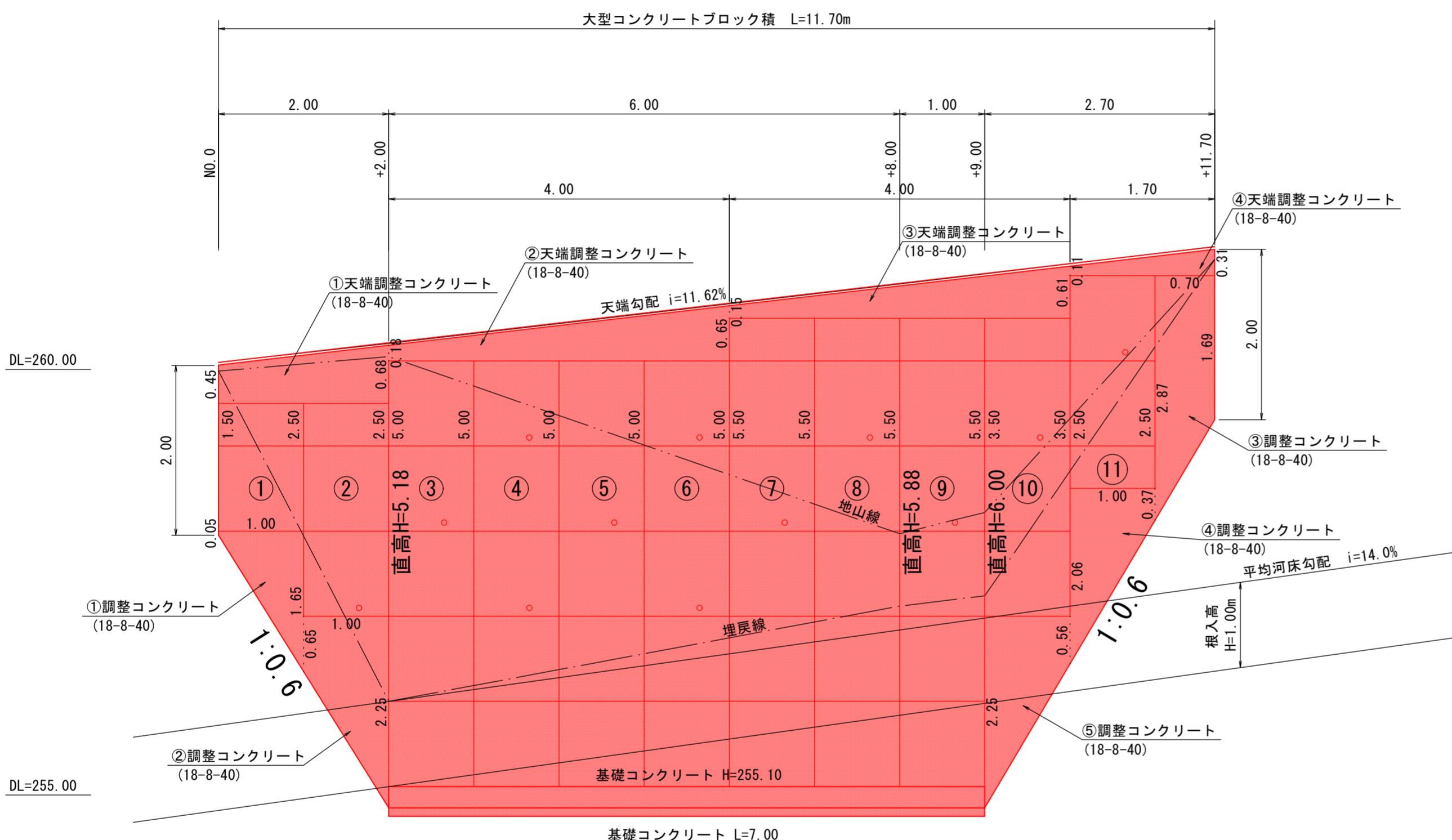
実施					
路線名	南沢線		事業名	災害復旧事業	
林道区分	その他	級別区分	2級	設計速度	20 km/h
年 度	令和 7 年度		施工主体	鶴岡市	
名 称	横断図		2葉中 1番		
施工地	山形県 鶴岡市 山五十川 字南沢 地内				
縮 尺	S=1:100	審査者		設計者	



実 施					
路線名	南沢線		事業名	災害復旧事業	
林道区分	その他	級別区分	2級	設計速度	20 km/h
年 度	令和 7 年度		施工主体	鶴岡市	
名 称	横断図		2葉中 2番		
施工地	山形県 鶴岡市 山五十川 字南沢 地内				
縮 尺	S=1:100	審査者		設計者	

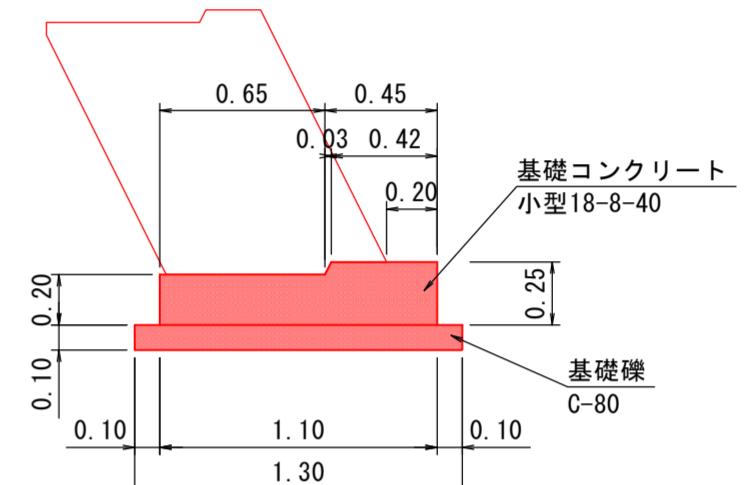
大型コンクリートブック積 展開図

S=1:50



基礎コンクリート拡大図

S=1:30



実施

路線名	事業名		災害復旧事業	
林道区分	その他	級別区分	2級	設計速度 20 km/h
年 度	令和 7 年度		施工主体	鶴岡市
名 称	大型コンクリートブック積 展開図 1 葉中 1 番			
施 工 地	山形県 鶴岡市 山五十川 字南沢 地内			
縮 尺	S=図示	審査者		設計者

平面

S=1:100

被災延長 L=11.70m

復旧延長 L=11.70m

表層工 A=12.7m²
路盤工 A=12.9m²

復旧計画標準図

S=1:100

This technical cross-section diagram illustrates a slope reinforcement structure. The top horizontal dimension is 3.60 meters, divided into segments of 0.30, 3.00, 0.30, and 0.60 meters. The vertical height of the slope is 2.00 meters. The diagram shows the following layers from top to bottom:

- 表層 再生密粒度アスコン (13F) $t=4\text{cm}$
- 路盤工 再生クラッシャン RC-40 $t=15\text{cm}$
- 裏込材 (RC-80)
- 排水パイプ 2~5m²に1箇所
VP $\phi 50\text{mm}$ $L=1.10\text{m}$
- 胴込コンクリート (18-8-40)
- 基礎コンクリート (18-8-40)
- 基礎礎 (C-80)

On the right side, there is a vertical dimension of 1.00 meters for the embedment height. The top boundary is labeled "林道管理界" (Roadside Management Boundary). The top right corner shows a vertical dimension of 0.68 meters, with a note indicating "大型コンクリートブロック積" (Large concrete block stacking) with dimensions 5.00~5.50 and 0.11~0.68 meters.

展 開 図

S=1:100

表層工

路盤

The diagram shows a trapezoidal dam with a pink shaded area representing the dam body. The top horizontal line represents the water surface at elevation +11.70. The bottom horizontal line represents the foundation at elevation 0.95. The left vertical axis shows elevations 1.05, NO. 0, and 2.00. The right vertical axis shows elevations 1.00, +9.00, +8.00, +2.00, and NO. 0. The dam is divided into eight segments labeled ① through ⑧. Segment ① is a triangle from 1.05 to 2.00. Segment ② is a trapezoid from 1.05 to 1.09. Segment ③ is a trapezoid from 1.09 to 6.00. Segment ④ is a trapezoid from 6.00 to 1.16. Segment ⑤ is a triangle from 1.16 to 1.17. Segment ⑥ is a trapezoid from 1.17 to 1.16. Segment ⑦ is a triangle from 1.17 to 2.70. Segment ⑧ is a trapezoid from 2.70 to 0.95. The widths of the segments at the bottom are 2.00, 6.00, 1.00, 1.00, 1.17, 1.17, 2.70, and 2.00 respectively.

素屬工面積求

表層上面積水積表				
符号	辺A	辺B	辺C	面積(m2)
1	1.03	2.00	2.27	1.
2	2.27	1.07	2.00	1.
3	1.07	6.11	6.00	3.
4	6.11	1.14	6.00	3.
5	1.14	1.52	1.00	0.
6	1.52	1.15	1.00	0.
7	1.15	2.86	2.71	1.
8	2.86	0.93	2.70	1.
合計				12

路盤工面積求

路盤上面積水積表				
符号	辺A	辺B	辺C	面積(m ²)
1	1.05	2.00	2.28	1.
2	2.28	1.09	2.00	1.
3	1.09	6.11	6.00	3.
4	6.11	1.16	6.00	3.
5	1.16	1.54	1.00	0.
6	1.54	1.17	1.00	0.
7	1.17	2.86	2.71	1.
8	2.86	0.95	2.70	1.
			合計	12

寒　施

路線名	林道南沢線		事業名	災害復旧事業	
林道区分	その他	級別区分	2級	設計速度	20 km/h
年 度	令和 7 年度		施工主体	鶴岡市	
名 称	舗装工構造図		1葉中	1番	
施工地	山形県 鶴岡市 山五十川 字南沢 地内				
縮 尺	S=1:100	審査者		設計者	

実施

路線名	林道南沢線		事業名	災害復旧事業	
林道区分	その他	級別区分	2級	設計速度	20 km/h
年 度	令和7年度		施工主体	鶴岡市	
名 称	仮設図 1葉中 1番				
施工地	山形県 鶴岡市 山五十川字南沢地内				
縮 尺	S=図示	審査者		設計者	

